

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社静内ケアセンター		
事業所名	グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	平成27年2月15日(日)	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットが廊下でつながっており、スタッフ、利用者様が自由に行ききしており、外にいけない時でも長い廊下を散歩している方もおります。利用者様はどちらに行っても顔見知りとなり、会話もはずみです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173800350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173800350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR静内駅から車で10分程の住宅地にある2ユニットのグループホームである。法人が運営するデイサービス、多目的ホール、地域包括サポートセンターなどがある地区にあり、相互連携や交流が行われている。共用空間が広く、昔ながらの調度品や季節の装飾、観葉植物などがあり、絵本など活動意欲が湧く品々も用意されている。職員は利用者のペースに合わせ、優しく穏やかに接している。地域との交流を活発に行っており、法人のお祭りに地域住民が参加したり、中学・高校生の就業体験や紙芝居・ハーモニカなどボランティアの訪問を受けている。多目的ホールで行う認知症カフェでも地域の方と交流している。介護サービスの面では、アセスメントシートや介護計画の定期的な見直しと、目標に沿った日々の記録が適切に行われている。災害対策では、火災や地震の訓練を定期的に行い、地域との協力体制を整えている。食事の面では、利用者が座りやすい高さのテーブルと滑りにくい椅子を用意し、独自の献立により美味しい食事が提供され、利用者もできる範囲で手伝いに参加している。全員で外食を楽しむ機会も頻繁に設けている。年間行事では、花見や紅葉見学のほか、近くの温泉に頻繁に出かけたり、札幌の水族館まで遠出することもある。利用者、職員、地域の人たちにとっての楽しく安心できる場という理念を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(ユニット2アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほほとできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほほとない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほほとない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほほとない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほほとできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりとした流れの中で楽しく一緒に認知症であって普通生活できる事と言う法人の理念と栗ちゃんの介護理念を朝の申し送り時理念を唱え日々仕事に活かしております。	法人の理念の中で、「利用者、職員、地域の人達にとって楽しい場でないといけない」という内容を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。ユニット毎の理念も作り、両方を朝の引き継ぎ時に唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者全員自治会に加入し自治会行事に参加したり、ホーム行事にも参加していただいております。	町内会の花見や廃品回収に参加したり、関連施設合同の夏祭りやクリスマス会に地域住民の参加がある。中学、高校生の就業体験、紙芝居やハーモニカのボランティアの訪問を受けている。法人の受託する認知症カフェでも地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会総会等に参加し認知症の相談、ショート、デイサービス等行っている事を説明させていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を行いホーム内での生活を見ていただき一緒に食事会や行事に参加して頂き、その後話し合い意見を出していただき、サービス向上に活かしております。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、複数の利用者家族などの参加を得て、行事や食事、事故、外部評価などのテーマの話し合いや避難訓練を行っている。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査員、生活保護担当職員が来訪時に生活状況等を話し情報交換を行い、日々のケアに活かしています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ている。手続きや相談の際は役場に直接出向いて行っている。法人が月2回ほど開店する認知症カフェを町から受託している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開き、その内容はミーティング、申し送り、プリント等にて報告しています。拘束のない様、スタッフ全員で取り組んでおります。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルや写真入りの資料を用意し勉強会で確認しているが、禁止行為に関する職員の正しい理解はまだ十分といえない。玄関は日中は施錠しておらず、出入りがあればセンサーで分かるようにしている。	身体拘束の「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について職員の理解が深まるよう、勉強会等で再度確認することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会の中で虐待についての取り組みを行い、ホーム内でもミーティング等で取り上げ虐待防止に取り組んでおります。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で1名利用されている方がおり、支援の方と情報交換し、より良い生活ができる様支援させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人と家族に十分な説明を行なっております。又、改定時そのつど説明し理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議又は来訪時意見を聞き、それらを運営に反映させております。	運営推進会議や来訪時に家族の意見を聞き、意見を申し送り時に共有するとともに、やり取りを個人毎の「介護支援経過表」に記録し、項目毎に色分けして分かり易くしている。また、毎月利用者毎にお便りを作成し家族に情報を提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを通じ職員の意見は聞いているし、個人的にも求められれば直接会って聞いている。年1回の職員との面接を実施。	月2回のミーティングの場で、職員が活発に意見交換している。職員は年1回、代表者や役員、管理者と個別に面談している。職員は身体拘束や研修などの委員会に参加したり、新聞づくりや写真、園芸、防火などの係を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態の把握につとめ、個々の評価、事業所としての評価をしており、常に職員が働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質を上げるための社内・社外研修に努めている。資格の取得を積極的に推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に進め、日高管内及び北海道認知症グループホーム協会に加盟しその機会に努めている。他のホームへの派遣研修や他の事業所からの受け入れも随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目		自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		ご本人の要望に耳を傾け、不安なことが有る時には安心できるまで説明することを心掛けている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		入居前のご家族との話し合いの場で希望要望をたずねており、入居後も面会時など話す機会を作っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		ご本人とご家族が必要としている支援を聞いた上で、利用可能なサービスを説明しております。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		食事の準備や洗濯物の片づけを入居者様と一緒にしている事で、暮らしを共にしている関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		私たちがすべてを受け入れるのではなく、家族でなくては出来ない事も有ると言う事を話させていただく。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		より良い家族関係が保てる様、話を伺い支援しています。		5～6人の利用者について友人や知人が来訪している。携帯電話を持ち込んで使用している方や、職員が手紙の代筆を支援する方もいる。美容院や文房具店、100円ショップなどに行ったり、自分の作品が掲示されている習字の作品展を見に公民館に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		暮らしを共にする者同士良い関係が築ける様、時には介護者が話のきっかけ作りをさせていただきます。			

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出して近況を報告したり、家族の方がホームを訪れたり相談にも応じます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活出来る様、入居後本人の希望を充分取り入れられる様にしております。	言葉で思いや意向を表現できる方は3分の1程度であるが、難しい方でも話しかけた際の表情や反応などから把握している。ライフヒストリー表やアセスメントシートで情報を共有し、シートの一部を定期的に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を元にその人らしい生活が送られる様部屋の工夫、外出援助等させていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行ない、健康状態を把握し入浴、外出等気を配っております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当を決め問題点等ミーティングで話し合い介護計画に活かしております。	介護計画を4か月毎に更新している。担当者とケアマネージャーが作成するモニタリング表をもとにカンファレンスで意見交換し、アセスメントまとめシートに集約した後、計画を作成している。日々の記録も計画目標を意識して記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日付けており問題点、気づきを月2回のミーティングで話し合い日々のケア、介護計画に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいきサロン(ボランティア)認知症カフェ(会社支援)に希望者を参加し地域の方と交流を深めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアのお茶会、紙芝居等に皆様との楽しみを支援させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、訪問看護を受けております。他の病院を希望された時は、対応させていただいております。	協力医による月2回の往診の他、町立病院の医師による往診を受ける方もいる。その他のかかりつけ医への通院は原則家族対応だが、必要に応じて事業所で支援している。受診内容を「介護支援経過表」の中で色分けして記録している。	

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師又は訪問看護師に相談しており、体調の変化時、その都度指示をいただいております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ面会に行き必要な物を届けたら、病院関係者と情報交換しできるだけ早期に退院できる様努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルまで行っている事を説明しております。重度化した場合、医師家族、管理者と十分話し合い方針を共有し、支援させていただいております。	利用開始時に「医療連携体制について(重度化した場合における対応に関する指針)」に沿って方針を本人や家族に説明しているが、署名捺印までは受けていない。職員は過去に数多くの看取りを行い経験を積んでいる。		「医療連携体制について(重度化した場合における対応に関する指針)」に本人や家族の署名捺印の欄を設けるか別紙の同意書を作成して、同意の署名捺印を受けることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社で年2回救命講習を行っており、スタッフは毎年1回は講習を受けるようにしております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を実施、震度5以上の時ホームへ集合する体制になっております。	年2回、消防や地域住民の協力を得て、昼と夜を各想定した避難訓練を実施し、うち1回は地震を想定した訓練としている。年2回、防災会議も行っている。職員は定期的に救急救命訓練を受講しており、災害時に必要な備蓄品も準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれが自由に過ごせる場所を作っております。	利用者への呼びかけは、名字に「さん」付けが基本だが、愛称で呼ばれた方が心地よい方は家族の了解を得て対応している。外部の接遇研修に役職者が参加し、詳細を内部研修で全員に周知している。個人ファイルは事務室等で管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、選択できるような質問の仕方をしております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てが希望通りにはできませんが、出来る限り希望にそった支援を行う様、努力しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選んでいただいたり、自分でできない身だしなみの介助を行っております。			

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材があるときは、その方に他の食材で調理するなど配慮しております。	栄養士に指導を受けながら献立を作成し、職員も一緒に会話しながら楽しく食事をしている。利用者も買い物や下ごしらえ、食器ふきなどできる範囲で参加している。誕生日や行事には好みのものや家庭的なお祝い料理を提供し、畑でとれた新鮮な野菜も食卓に上っている。外食の機会も毎月ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯をお粥にしたり食材を細かく切る等工夫しています。食事量や水分量の記録や申し送りにより、一人ひとりの摂取量を把握し、声掛けや支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なって清潔を心掛けております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表に記入し、声掛けや介助で失禁のない様に努めております。	排泄チェックシートでパターンを把握し、全員にトイレ誘導している。声かけの際は直接的な表現を避けたり、小さな声で誘っている。夜間も含めてポータブルトイレも利用しながら、全員が便器に腰かけて排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックと食事の工夫、ユニット廊下を歩いて運動していただく。利用者様に合う下剤等を使用しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めておらず週2回は入浴して頂き、そのほか希望時は入って頂いております。	入浴剤を変えるなどの工夫をして全員が気持ちよく入浴できるように支援している。入浴拒否する利用者には、時間や日にちを変更するなどに対応し、2人介助も行っている。年3回は全員が近郊の温泉に行き入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に応じて昼寝をして頂いたり、消灯時間を決めず一人ひとりに合わせて休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルに1人ひとり閉じ、いつでも見れるようになっております。服薬の確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりをまるめたり、お茶を入れていただいたり、体操を行ない気分転換を計っております。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩、ドライブに出かけております。花見、紅葉見等遠くまで本人の希望を取り入れながら実行しております。	天候の良い時期には近くの公園や近所の花畑を散歩したり、法人が運営する認知症カフェでお茶を飲んだりしている。また、一年を通じて、利用者と一緒に町内の湧き水汲みや買物に行っている。外出行事ではバラ園や農場見学、花見、札幌の水族館など外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名ほど自分でお金を持ちホームでパンを売りに来た時買ったり、外出した時自分で買い物しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話できる方は今はおりません。電話をしたいと言う時はこちらかけて本人と変わっております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾り、お花を飾る等季節感を出す様にしております。食事の時音楽を流しリラックスして食事できる様配慮しております。	共用空間は広くて天井も高い。居間には、スペースに合わせて変化が可能な低めの六角テーブルがあり、手掛け穴も付いているので利用者の立ち上がりにも便利である。食卓椅子も低めで滑りづらく工夫されている。トイレの数が多く、職員用のトイレもある。廊下には長椅子や椅子が複数置かれ利用者が自由に寛ろぐことができる。沢山の観葉植物が配置され、亀や犬などのペットも飼われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	渡り廊下、廊下間に椅子等ソファを置きいつでも休める様にしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族の思いを大切に家具、仏壇等を置いております。	居室ドアには利用者の大きな写真が飾られ、室内には利用者の仏壇や家族の写真など馴染みの家具や品が持ち込まれ居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所の高さを2段階に分け、利用者様に合わせて使用して頂いており、又トイレも3ヶ所あり利用者様に選んで頂いております。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社静内ケアセンター		
事業所名	グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	平成27年2月15日(日)	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念、ゆったり、楽しく、一緒にをモットーに日々過ごしており、出来る事は、一緒にする様にしてあります。  
デイサービス、ショートも受け入れ地域の要望を聞き入れながら、ボランティアの方にも行事等に参加していただき、一緒に楽しんでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173800350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173800350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(ユニット2 アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりとした流れの中で楽しく一緒に認知症であっても普通に生活できる事と言う法人の理念と栗ちゃんの介護理念を朝の申し送り時理念を唱え日々仕事に活かしております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者全員自治会に加入し自治会行事に参加したり、ホーム行事にも参加していただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会総会等に参加し認知症の相談、ショート、デイサービス等行っている事を説明させていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を行いホーム内での生活を見ていただき、一緒に食事会や行事に参加して頂き、その後話し合い意見を出していただき、サービス向上に活かしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査員、生活保護担当職員が来訪時に生活状況等を話し情報交換を行い、日々のケアに活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開き、その内容をホーム内のミーティングで話し全員の意見を聞き、日々拘束のない様取り組んでおります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に近いケースがあると委員会でも取り組み、ホームでも話し合いをして防止しております。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関しては研修で勉強してきましたが、成年後見制度に関しましては勉強していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人と家族に十分な説明を行っております。又、改定時そのつど説明し理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議又は来訪時意見を聞き、それらを運営に反映させております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを通じ職員の意見は聞いているし、個人的にも求められれば直接会って聞いている。*年1回の職員との面接の知実施。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態の把握につとめ、個々の評価、事業所としての評価をしており、常に職員が働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質を上げるための社内・社外研修に努めている。資格の取得を積極的に推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に進め、日高管内及び北海道認知症グループホーム協会に加盟しその機会に努めている。他のホームへの派遣研修や他の事業所からの受け入れも随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話をするように心掛けています。色々な話からその方が困っている事や不安なことを聞きだせる様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とも話をして色々な要望等に答えられる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望で入居後デイサービスに行かせてほしいと言われたので、時々遊びに行ってもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にじゃがいも等の皮むきをしたり、洗濯物たたみをしたりしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が会いに来られた時は、出来るだけ利用者様本人と家族の方が一緒にいられる時間を作っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通われていたデイサービスにも時々通って頂いたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の口論になるとすぐ職員が間に入り、笑いに変えられる様努めてえています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方と色々なところで出会うたびお話をさせて頂いています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の希望を聞きながら、管理者やスタッフ同士で話をしています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話を良くして頂いています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人その人の出来る事をして頂いたり、皆様と体操をしたりしています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方と話をしたり、月2回のミーティングでスタッフ同士話をしながら介護計画を作成しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントの記入をしながら月2回のミーティングでスタッフ同士話合っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があればその都度対応しています。統一するためミーティングで話し合います。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が来られ、一緒に野菜の皮をむいたりお手伝いをして頂ける様支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院に行きたいと言われれば家族に連絡をして行って頂いています。家族が来られない時はこちらで対応しています。			

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師又は訪問看護師に相談しており、体調の変化時、その都度指示をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ面会に行き必要な物を届けたら、病院関係者と情報交換しできるだけ早期に退院できる様努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルまで行っている事を説明しております。重度化した場合、医師家族、管理者と十分話し合い方針を共有し、支援させていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社で年2回救命講習を行っており、スタッフは毎年1回は講習を受けるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中・夜間と避難訓練を行なっています。自治会の方々も協力して頂いています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけそばへ行き、近くで声掛けする様努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何種類かのおやつ等があると自分の好きな物を選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が選んだことをして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色やこだわりに対応する様努めています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいも等の皮むきは一緒にして頂けるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方は病院からの指示を受けながら行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きできる方は自分で行って頂き、出来ない方にはお手伝いをさせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみて声掛けを意識しています。失敗の少ない方はパット類を外しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージやお薬で調節しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその時の利用者様の状況に合わせて入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をしたい方は居室へ行って休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認が出来るようお薬のファイルを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせて外出したり、外食等しています。情事の際はボランティアの方に声をかけています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方が連れて行ってくださったり、季節に応じて外出等をしています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方からお金を預かっており、本人がほしいという物は一緒に買いに行く等しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方からの電話は取り次ぐ等しております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや花等を玄関に飾っております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が違和感のない様に座って頂いています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好きなものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きなもの等を持ってきて頂いています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるように矢印等を付けています。			



目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	医療連携体制について(重度化した場合における対応に関する指針)に、本人や家族の署名捺印の欄を設けるか別紙の同意書を作成して、同意の署名捺印を受ける。	内容を検討して本人や家族の署名捺印の欄を設けま す。	上司、スタッフと内容を検討し作成しました。	1ヶ月
2	6	身体拘束の「指定基準における禁止の対象となる具 体的行為」について、職員の理解が深まるよう勉強会 等で再度確認する。	身体拘束について職員の理解が深まる様努力しま す。	委員会を設けて年3回委員会を開き、その結果をミー ティングで話し合いケアに活かして行きます。又、拘束 の研修を内部・外部で行い、全職員が理解できる様努 めます。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。